

2016年6月27日

電通はじめ世界の大手広告6グループが 「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けて連携

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：石井 直）および電通イージス・ネットワークを中心とする電通グループは、2015年9月25日の第70回国連総会で採択の「我々の世界を変革する：持続可能な開発のため2030アジェンダ」に基づき設定された「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)について、潘 基文 国連事務総長からの呼びかけに応じて、世界の大手広告5グループと連携し、特定テーマの達成に向けて協力していくことで合意しました。

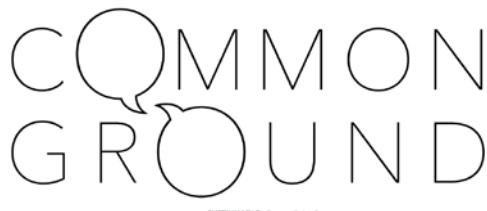
SDGsを中心とする2030アジェンダでは、「国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択したアジェンダを基に、2015年から2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的・社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くします」とされています。

今回の大手広告6グループ（電通、Havas、IPG、Omnicom、Publicis、WPP）による連携は、ビジネスにおける競合関係を超えて、グローバルに取り組む画期的なイニシアチブです。その第一歩として、第63回「カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル」(Cannes Lions International Festival of Creativity 2016)で6月24日に行われたセッションに各グループの経営トップが集い、同じステージで課題意識を改めて共有、世界で最も切迫している課題の解決に向けて、広告会社がその強みであるクリエイティビティーを生かしていくことで合意しました。今後共同でSDGsをサポートする広告キャンペーン「Common Ground」（共通の立場）などを展開していくことになります。

これに伴い、6グループの経営トップは次の共同声明を発表しました。

「広告キャンペーン『Common Ground』は画期的なプロジェクトです。国連で採択されたSDGsの達成に向けて、6グループがライバル関係を超えて手を取り合い、世界が抱える深刻な課題に取り組むものです。熾烈な競争関係にある広告会社同士が広い共通課題のために連携・協業することで、他の業界・企業においても、同じような取り組みや関係性が生まれることを期待しています」

■Common Groundのロゴマーク



■SDGs サポートキャンペーン「Common Ground」のコミュニケーションビジュアル



テーマは、上段は左から「教育」「健康」「気候変動」「安全な水」

下段は左から「飢餓」「貧困」「難民」

■17の持続可能な開発目標（SDGs）



以上

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社電通 コーポレート・コミュニケーション室 広報部

河南、長澤 TEL : 03-6216-8041